

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスまほろ桜				公表日	令和7年12月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		職員の目が届くように物を配置したりスペースを確保している		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	人材確保を積極的に行い、必要数よりも多く配置出来ている		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		死角が少ないから良い	パーテーションがあると良い	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		施設が清潔感があり、整備されている点が工夫されている		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		静養室や面談室などクールダウン出来る部屋がいくつかある		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		その日の注意事項や前日に起こったことなど、日々共有し改善策を共有している		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者向けアンケートを行い、その内容やご意見を参考に業務改善につなげている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		担当部屋に分かれてのミーティングは意見を伝えやすい場で業務改善にもつながりやすくて良いと思った。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		ミーティングを頻繁に行なっている点が工夫されている		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		専門職が中心となり、作成した支援プログラムを会社ホームページに公表している		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		子供や保護者のニーズを職員間で共有し、客観的に判断したうえで作成している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援計画は支援にあたる従業員全てに共有され、計画に沿ったかたちで療育が行われている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		社内連絡ツールを利用して全ての従業員がそれぞれの児童の最新の情報を共有できている		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		様々なアセスメントツールを用いて保護者への共有が出来ている		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		課題は専門職を中心に、職員全員で企画を出し合って行っている。		

支援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		活動プログラムが5領域から考えられていて内容が充実している	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		集団課題、個別課題ともに児童の状況に合わせた計画が立てられ、支援が行われている	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援前にはかならず当日の行動予定の確認や、特記事項の確認を行い、役割分担を決めて支援をおこなっている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		社内ツールを活用して日々の出来事など、細かい部分まで共有出来ている	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		その日の様子などは専用のシートを用いて記録され、職員に共有されている	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的なモニタリングを行い、見直しを行ったうえで支援をしている	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8		遊びや課題、集団活動の中に生活動作や社会性の要素を取り入れるなど、総合的な育ちにつながるよう工夫しています	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		視覚的な提示や複数の選択肢を用意することで、自分の意思を伝えやすい環境づくりを行っています	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		子どもの状況を把握している職員が、関係機関と連絡を取り合い連携している	
関係機関や保護者との連携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		地域の関係機関と必要に応じた支援体制を整えている	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		学校と情報共有や連絡調整を行い、送迎や緊急時にも適切に対応している。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		必要に応じて情報共有を行っている	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		放課後等デイサービス終了後、障害福祉サービス事業所等へ移行する際には、これまでの支援内容等の情報提供を行っている	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8			
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	8		児童館や公園などの外遊びを通して地域の子供と交流する機会がある	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8			
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		LINE等の連絡ツールを用いて日々状況を共有し療育へつなげている	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4		家庭ごとの状況やニーズを考慮し、現時点では一律の家族支援プログラム等は実施していませんが、今後の検討課題としています。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		運営規程や支援内容、利用者負担等について掲示したり説明をおこなっている	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		子どもと保護者の意思を尊重した確認の機会を設けている	

保護者への説明等	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		支援内容を説明し、保護者の同意を得ている	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		必要に応じて相談に対応し、面談をおこなつたりメールでの助言・支援を行っている	
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	6		保護者ごとに求める関わり方が異なるため、一律の交流は行わず、より柔軟な関わり方を検討しています。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		お迎え、保護者様へ送迎時に必ず申し送りを行なっており、チャットを使い従業員間でもすぐに共有できるようになっている点が工夫されていると思う	
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		日々Instagramやブログの更新をおこなつたり、利用者のみが見れる媒体で子供の様子を発信している	
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		他の児童の個人情報などにも注意を払って説明を行なっている	
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		こどもや保護者の状況に応じ、わかりやすい説明や伝え方を工夫し、円滑な意思疎通と情報共有に努めている	
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	地域の交流会や講習会などに参加している	安全面や運営体制を考慮し、現時点では地域住民を招いた行事は実施していませんが、今後の検討課題としています。
	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルを貼り出したり、消防士の方を招いての訓練を行なっている点が工夫されている	療育室でのスタッフの配置をより意識すると事故が軽減されると思う
非常時等の対応	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		非常災害に備えて定期的に避難訓練等を実施している。	
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		服薬状況や予防接種、てんかん発作等について、事前にこどもの状況を確認している	
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギー食札を用いる等して対応している	
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画に基づく取組内容を家族へ周知している	
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットは従業員全体が確認できるようになっている	
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止のため、職員研修等を実施している	
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			